

## 世界史

I 次の文章を読んで空欄に最も適切な語句を記入し、下線部についてあとの問いに答えよ。

中国はよく「歴史の国」といわれるが、その歴史はどのように記録されてきたのだろうか。

前漢王朝の歴史を記した『漢書』には次のような記載がある。「古の王者には代々史官（記録官）がいて、左史は言葉を記録し、右史は出来事を記録した。出来事は『春秋』となり、言葉は『尚書』となった」と。この『春秋』はもともとは **A** 国の年代記で、それを孔子が整理編纂したことで儒学の基本文献とされたもの、『尚書』は『書経』のことで古聖王の言葉を収録したものである。『春秋』の記載範囲は紀元前722年～前481年であるが、『尚書』にはそれより遙か昔の聖王である堯・舜の言葉も収録されている。ただし、堯・舜は伝説上の古聖王なので、<sup>(1)</sup>『尚書』所載の堯・舜の言葉は後世の創作であると思われる。

では、確実な歴史記録として最も古いものは何であろうか。現時点で、確実に同時代記録といえる最古の例は卜辞である。卜辞は殷代後期に王が行った占いの記録で、占いをした日付、占った内容、占い結果の判定、その結末などを獣骨や亀 **B** に刻んだものである。文字らしき記号が一つ二つ記される例は、黄河中流域の **C** 時代の文化である仰韶文化の土器などにも見られるが、複数の文字を連ねてまとめた意味を記録したものとしては、今のところこの卜辞が最古である。

周代になると、王の家臣で戦功などを立てて恩賞を受けた者や官職に任命された者などが、そのことを記念し祖先に報告するための **D** 製の祭器を铸造し、そこに祭器制作に至る経緯が記されるようになる。戦功や恩賞、官職任命といった出来事を記録して保存し、後の時代に伝えるという点で、これはまさしく歴史記録と呼ぶことができよう。『尚書』には、周の成王など実在したと考えられている王の言葉も載せられているが、これらも同類といえる。ただし、これらはその時々起こった個々の出来事を個別に記録して保存しているだけであって、流れゆく時間の

中で次々と起こる出来事を継続的に記録して保存するという年代記の形にはまだなっていない。

年代記的歴史記録の原初的な形は『史記』殷本紀（殷王朝の歴史記録）に見ることができる。殷本紀には「某立，某卒（某が即位した，某が死去した）」のように歴代の殷王の即位と死去のみが即位順に記録されている。同じ『史記』の秦始皇本紀附載の王名表ではもう少し記載内容が増えて、<sup>[2]</sup>歴代君主の在位期間，埋葬地，後継者名が即位順に記されている。やがて，その記載も世代単位から1年単位，1ヶ月単位，1日単位と次第に細かくなっていった。例えば，秦代の地方官吏の墓から発見された竹簡には，始皇帝までの4代にわたる王の治世の出来事が1年単位で記されているし，先述の『春秋』の記載は1ヶ月単位である。

このような年代記形式とは別に，説話も記録され伝えられるようになる。戦国時代の時代名称の由来となった『E』は，まさにこの時期の説話を集成したものである。このような説話は『史記』にも多く取り入れられていて，それらは年代記的記録の間に挟み込まれる形に編集されている。

そのようにして書かれた『史記』は，新たな歴史叙述の形式も創造した。帝王の記録である本紀と優れた個人の記録である列伝を中心とする『F』である。この形式は中国において最も権威ある歴史叙述の形式とされた。

『史記』は太古から司馬遷が生きた前漢『G』帝期までの通史であるが，後漢時代の『H』は前漢時代のみを歴史記録である『漢書』を執筆した。これ以降，王朝毎に『F』の歴史書が作成されるようになった。この王朝毎の歴史書は，唐代以前は『漢書』のように個人の著作として執筆されていたが，唐代以降は国家事業として前王朝の歴史書が作成されるようになった。

「歴史の国」は，このような歴代王朝による歴史編纂事業の成果でもあるのである。